

かすりの道

南風原町の「照屋」・「本部」・「喜屋武」の3つの集落は古くからかすり産業の盛んな地域 として栄え、織物の工房や糸張り作業場などが集まっています。

古い時代の情緒が残るこのエリアは『かすりの道』として整備され、一周約2kmにおよぶ石畳 の歩道には「琉球かすり」模様と民家の壁にかすりの図柄がほどこされているのが特徴です。

地元ガイドの案内で散策する『かすりの道まちまーい』などのイベントも開催され、「織物 のまち・南風原町」を体験できる散策ルートとなっています。





「かすりの道」周辺の民家の壁にはかすりの図案がペイ ントされ、そばに添えられた図案の解説を読むと散策し ながら琉球かすりについて学ぶことができます。ペイン ト柄は町内の小学生の手によって描かれたものです。



本部集落にある「かすりの道」(古民家謝名家裏通り)



②大城織機製作所(本部)





かすりが出来るまで

■種糸とり

御絵図帳や他のかすり図案を参 考にして独自の 絣図案を作成す

2 整経

る。種糸を1本に長く伸ばし 従って手でかす て整経台に張り種糸に合わ り括りを行う。 せてかすり糸を整経する。

3 かすり括り

物染料を用い多彩 な色を染色する。

4 染色

5 綜絖掛け

すくい、割竹を使っ て綜絖掛けを行う。

6 製織

わせながら織る。

7 製品検査

幅、量目、織り、地合、染料等 について、ベテランの検査員に よって厳重な検査を受けます。





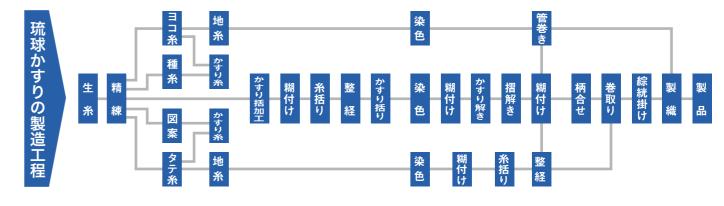
綜絖掛け

製織





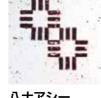
製品検査

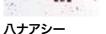


琉球王府の「御絵図帳(みえずちょう)」 に定められた600種もの多彩な図柄。 ひとつひとつの図柄に意味があります。

琉球かすりには多彩な幾何学模様が織り込まれています。植物・動物・ 生活用品などをモチーフにした模様で、琉球王国時代の「御絵図帳」を元 に、職人たちが現代の感覚を取り入れてオリジナルをつくりあげます。

「御絵図帳」とは、絵図奉行によってまとめられた図案集。琉球かすりが 貴重な貿易商品だった時代、王国に収める貢納布を織らせるために模様 や染色などを細かく指定したものです。





三筋を織り合わせて、

花の形を2つ、段違い

に並べた文様。



ミミチキトーニー

耳付き(取手付き)の エサ箱や湯船などの 四角い容器のこと。



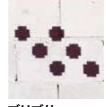
ベッコウをあしらっ た吉祥文様で、長寿 祈願の思いを込めて いる。



イチチマルグムー 5つの丸い雲を表現し た文様。琉球かすりの 代表的な柄のひとつ。



ティージクンピーマー 握り拳に似た文様。 かすりとかすりをつな ぐ小かすりとしてよく 用いられる。



ブリブサー 経かすりと緯かすりの 重なりで地色との対 比を強調。夜空の群 星を表現。



トウイグワー 2羽で飛ぶ鳥小を表 した文様。琉球かす りの中で最も多く用 いられる。



経緯かすり (たてよこがすり) ハタに似たかすりと2つ の四角は、かすり全体に

バランスよく配置される。



カキジュー ナベなどをつるしてか けるもの。本土では流 水と呼ばれる模様で